

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【慈恩寺小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	児童の実態に応じた、算数「数と計算」の実践を継続して取り組んだことにより、基礎的・基本的な知識・技能の向上を図ることができた。しかし、除法の理解や公約数の求め方等の定着に個人差が見られた内容については、引き続き、小プリントやドリルパーク等を朝のじゅくりタイムや授業のはじめ等を活用して継続していく。国語「言葉の使い方や使い方の事項」において課題がみられることから、朝のじゅくりタイム等で全学年で取り組み、令和6年度のさいたま市学習状況調査で検証する。
思考・判断・表現	全体的に、「目的に応じて書くこと」に課題がみられた。3年生では「常体と敬体に注意して書く。」4年生では「具体的な事例を挙げて分かりやすく説明する文を書く。」5年生では「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。」について、朝のじゅくりタイムや各教科領域の授業において、教科横断的な視点で意図的に書く活動に取り組ませる。また、各教科領域の授業で、根拠を基にし発達段階に応じた自己の考えをまとめる活動を重視する。
主体的に学習に取り組む態度	5・6年生の「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の質問項目において、肯定的な割合を85%以上を維持するため、学習や行事の中で自己の目標を立てたり活動の振り返りを充実させたりすることで、主体的に取り組む態度を育成する。1～4年生においても、ICTやノート・ワークシート等を活用した振り返りの実施や蓄積を図り、主体的に学習に取り組む態度を育成する。

① 目標・策	
目標	策
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査の算数の「数と計算」において、令和4年度の自校の結果より平均2pt向上させる。 ⇒ 昨年度の市学調の結果や児童の実態をもとに、各学年の「つよみ・よわみ」を明らかにする。明らかになったことをもとに学年の発達段階に応じ、算数の時間のはじめや朝学習の時間を利用して「数と計算」に特化した問題を一年間継続して取り組む。
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査の国語の「思考・判断・表現」に関わる領域において、令和4年度の自校の結果より平均2pt向上させる。 ⇒ テーマや時間、話し方・聞き方、タブレットの活用等、発達段階に合わせたスピーチを児童が順に実施する。国語の学習に留まらず「思考・判断・表現」を意識した授業を展開し、自分の考えを言葉や文章で表現する活動に取り組む。キャリアnaviに基づく資質向上目標を各教諭がもち、内容と方法等学習指導の改善を目指す。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を85%以上にする。 ⇒ アクティブ・ラーニングを取り入れた授業展開の促進のため、研修推進委員が中心となった校内研修の充実と研究授業を一年間に3回以上実施する。縦割り活動による異学年交流や学校行事、児童会集会活動等において、児童に役割を任せる体験活動を通して、自己肯定感を高め自信へとつなげる。

<小6・中3>(4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査算数「数と計算」において、令和4年度調査の自校の結果より、小3+4.4pt、小4+3.4pt、小5+4.4pt、小6+3.2ptで平均+3.8ptであった。算数の授業の始め5分間やじゅくりタイム等で、数と計算領域に特化した問題の反復練習が習慣化し、伸びがみられた。	A
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査国語「思考・判断・表現」に関わる領域において、令和4年度調査の自校の結果より、小3-1.3pt小4+11.4pt小5-5.6pt小6-0.7ptで平均+0.9ptであった。教育活動の中で、発達段階に合わせたスピーチ等を通じ児童が自らの考えを言葉や文章で表現する活動を継続してきた。また、授業のまとめを自分の言葉で書く活動を行ってきた。	B
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が94%であった。学校課題研修での年間3回の授業研究会や、教職員の授業力向上を目的とした校内研修や学力向上研修を実施した。授業の振り返りを欠かさずに行うようにし、縦割り活動や児童会集会活動等を通じ、児童が計画・実施する体験の場を多く提供した。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	算数「数と計算」の加法と乗法の混合した整数の計算や、分配法則を用いた計算の問題では、加法と乗法の混合した整数の計算を正しく計算できる児童が少ない。(151+49)×3と151×3+49×3という問題では、計算をしなくても式を見れば答えが同じになることに気付くことが難しい児童が見られる。これは、計算方法の理解が不十分なことや正しい計算方法が定着していないことが要因であると考えられる。
思考・判断・表現	国語では、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる問題において、無解答率が高い。話の内容を捉えることが難しい児童が多く見られた。登場人物の発言については書くことができていた。しかしながら、登場人物の思いを捉えることができる児童が少ない。これは、問題に対して記述で解答する経験が少ないことが要因であると考えられる。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目の、肯定的な回答が平均を上回った。授業では必ず、自ら課題を確認したり課題の解決へ向けた学習方法を自分で選択したりする活動に取り組んでいることが成果として考えられる。より一層、児童主体の学びとなるよう主体的な活動を取り入れた授業改善に務める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
小3	令和5年度算数「数と計算」において、令和4年度の自校の結果より+4.4ptであった。「図形」における各種図形の定義の理解に課題がみられる。「図形」の向上をはかるため、四角形の定義や円の中心・直径・半径等についての基礎的な問題量を増やし活用できるようにしていく。令和5年度国語「思考・判断・表現」に関わる領域において、令和4年度の自校の結果より-1.3ptであった。「言葉の使い方や使い方の事項」では市平均正答率に比べ課題がみられる。「言葉の使い方や使い方の事項」の向上をはかるため、主述関係の理解を深めるための練習や、文章の中で正しく漢字を使う練習をしていく。
小5	令和5年度算数「数と計算」において、令和4年度の自校の結果より+4.4ptであった。公約数を正確に求める問題において、市平均正答率に比べ課題がみられる。公約数の定義を理解し、正確に求めるための練習問題に継続して取り組む。令和5年度国語「思考・判断・表現」に関わる領域において、令和4年度の自校の結果より-5.6ptであった。「言葉の使い方や使い方の事項」では市平均正答率に比べ課題がみられる。主語と述語の関係を理解するため、主語の特徴を提示したり述語は文の終わりに注目して見つけるようにしたりして、主語と述語を意識して文を読む活動をしていく。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目における肯定的な解答の割合が92%であった。
小4	令和5年度算数「数と計算」において、令和4年度の自校の結果より+3.4ptであった。しかし、除法の意味の理解について市平均正答率に比べ課題がみられる。基準量と比較量の関係に着目し正確に立式する力を高めるため、基準量と比較量を捉え正しく立式するための練習問題に取り組んでいく。令和5年度国語「思考・判断・表現」に関わる領域において、令和4年度の自校の結果より+11.4ptであった。「書くこと」では市平均正答率に比べ課題がみられる。伝えたいことを相手に分かりやすく説明するため、自分の体験したことや聞いたこと、学習したこと等を挙げて文に書く活動を行っていく。
小6	令和5年度算数「数と計算」において、令和4年度の自校の結果より+3.2ptであった。「変化と関係」では市平均正答率に比べ課題がみられる。全体と部分の比の対称関係を理解するため、図と言葉と式を関連付けて考え、正しく解答できるように練習問題に継続して取り組む。令和5年度国語「思考・判断・表現」に関わる領域において、令和4年度の自校の結果より-0.7ptであった。「言葉の使い方や使い方の事項」では市平均正答率に比べ課題がみられる。学習した漢字を文の中で正しく使う力を高めるため、漢字を練習する際は漢字の書き方だけでなく、その漢字を使った熟語を調べたり自分で文を作ったりする等、文や文章の中で使う練習に取り組む。国語辞典や漢字辞典も使い漢字を増やしていく。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目における肯定的な解答の割合が96%であった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)	
目標	策
知識・技能	変更なし ⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算することが課題である。2・3学期は各学年の課題について、ドリルパークや小プリント等でじゅくりタイム等を活用して繰り返し学習に取り組んでいく。
思考・判断・表現	変更なし ⇒ 複数の資料を基に考えをまとめる力が高められるよう、各教科において、話を聞いたり文章を読んだりすることで内容を理解する力をつける。そのために、授業において学習のまとめを自分の言葉で書く活動を継続する。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし ⇒ 授業における目標を明確にし、どんな力をつけるのか、児童が見通しやめあてをもって授業に臨めるようにする。授業の終わりに学習のふりかえりを実施する。